

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		高齢化によるADL、QOLの低下において、転倒のリスクが大きくなっている。	個々の残存機能を把握することで、生活の中で取り組めることを実行し、ADL、QOLの低下を防ぎ、その方らしい生活を送ることができる。	個々の残存機能を維持する為、CD体操、歩行訓練、口腔体操、日常生活での取り組みをプランに盛り込み、実行し、モニタリングを行う。	6ヶ月
2		職員の入れ替わり等により、ケアにばらつきが出てきている。その為、ケアの統一が必要となってきている。	グループホーム本来のケアの質を確認し、こやまケアを実施することにより、ケアの統一を図る。	こやまケアの勉強会をユニット会議にて開催し、個人の実践評価表を3ヶ月に1回実施することで、自身のケアを振り返り、ケアと意識の統一を図る。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。